

# 8K医療応用と技術課題

2020年開催の東京オリンピック・パラリンピック開催時に本格放送を目指す超高精細8K（水平7,680×垂直4,320・画素総数3,300万）。この映像技術を「待ってました」とばかり大歓迎するのが、外科手術にかかわる医師たちだ。とりわけ内視鏡手術用に8Kカメラを使いたいという声が日々高まる。そこで8Kを医療分野で活用するための技術課題をまとめた。

特集  
構成

- インタビュー** 千葉敏雄氏 日本大学 総合科学研究所 教授/医師、医学博士  
「8K外科手術用内視鏡システムが医療を変える」
- 特別寄稿** 山下紘正氏 日本大学 総合科学研究所 准教授/博士（情報理工学）  
「8K映像技術の医療応用と課題」
- インタビュー** 谷岡健吉氏 メディカルイメージングコンソーシアム 副理事長、元NHK放送技術研究所 所長/博士  
「医療用8Kカメラ撮像素子にHARP技術を活かす」
- インタビュー** 黒木義彦氏 株式会社コンフォートビジョン研究所 代表取締役社長/博士（工学）  
「独創の『マイクロ立体視』と『240fps』技術の医療応用への展開」
- 表紙・今月の表紙 小池康博氏 慶應義塾大学 教授、フォトニクス・リサーチ・インスティテュート所長/工学博士  
「世界最速プラスチック光ファイバーと8K医療用ディスプレイを実現したフォトニクスポリマー技術」
- 特別寄稿** NHKメディアテクノロジー  
「8K・4K3Dでとらえた外科手術映像の教育利用への展開」

## インタビュー

●聞き手：吉井 勇・本誌編集長 ●構成・写真：古山智恵・本誌編集部

## 千葉敏雄 教授・日本大学 総合科学研究所 8K外科手術用内視鏡システムが医療を変える

8K外科手術用内視鏡システムの開発に尽力する千葉敏雄教授・日本大学 総合科学研究所が初めて本誌に登場したのは2014年5月号の表紙で、タイトルは「8K内視鏡手術の動物実験に成功」だった。当時、千葉教授は国立成育医療研究センター 社会・臨床研究センターの副センター長であり、元NHK 放送技術研究所所長の谷岡健吉氏と登場していただいた。あれから1年半、内視鏡手術は人への応用へと進んでいる。医療における8Kの役割と課題を千葉教授の立場から聞く。

医師・医学博士である千葉敏雄日本大学総合科学研究所教授は8K外科手術用内視鏡カメラの特性を、図解を交えて力説



本誌に登場したのは2014年5月号の表紙

